小山祐士君の『瀬戸内海の子供ら』

岸田國士

青空文庫

小山君の戯曲家としての成長は、その階梯が極めて劃然とし、『翻るリボン』から、『十二月』、それからこの『瀬戸内海の子供ら』に至る最近の三作を通じて、見事な飛躍をなし、遂に、同君の今日の境地に於て、恐らく完璧ともいふべき表現に到達し得たといふことは、芸術修業の道にあるものが、等しく羨望に堪へぬところである。如何なる好条件に恵まれてゐるにもせよ、会社勤めの傍ら、この大作にじつくりと取組んだ同君の意気は、今日のわが戯曲壇に多くの教訓を垂れるであらうと思ふが、それよりも、彼が、一切の理論と風潮に拘はらず、その「身についた文学」を徐々に築き上げ、戯曲に於て、「詩」と「散文」の交錯する一点を確実につかみ得た結果であらう。

小山君の、時としては自らこれに酔ふ如きかの音楽的幻想は、次第に現実の肉体によつて置き代へられつつあるが、その観察は、常に新鮮であると同時に、またややもすれば装飾的である。主題の流れに添ふものとしては、切り捨てるべき部分がなくもない。ただ、作者ならずとも、これは惜しいのである。

舞台ではそれゆゑ、刻々の幻象（イメエジ）を、精密に、完全に生かし出さなければ、自然空隙が目立つか、平板に陥り易いといふことになる。

俳優の努力もひとしほであるし、見物の心構へも亦これに相応したものであつてほしい。

要するに、小山君は、瀬戸内海が生んだ現代有数の詩人であり、この戯曲は、新劇史上、記念すべき代表的作品の一つたることを、私は敢へて信じるものである。（一九三五・四）

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集22」岩波書店
　　1990（平成2）年10月8日発行
底本の親本：「現代演劇論」白水社
　　1936（昭和11）年11月20日発行
初出：「築地座　第二十八号」
　　1935（昭和10）年4月26日発行
※初出時の題は「瀬戸内海の詩人」。
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2009年9月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小山祐士君の『瀬戸内海の子供ら』

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/